

小中学生講義用テキスト《講義型》解説書

スライド	解 説
	<p>《自己紹介》</p> <p>自己紹介は児童生徒との最初の接点です。最初に児童生徒の心を掴めれば、その後の講義もスムーズに進められます。つかみとして、児童生徒の興味を引くような相談例の話などをするとよいでしょう。</p> <p>ただし、租税教育の目的は税理士の職業紹介ではありませんので、簡単に紹介するよう工夫をしてください。</p> <p>その場を無理に盛り上げたり、笑わせたりする必要はありません。得意な方法で、児童生徒の心を掴んでください。</p>
<p>今日のお話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金はなぜ必要なの？ ・公平に集めるって？ ・公平に使うって？ ・税金から見た民主主義 ・日本の財政と課題 	<p>《テーマの発表》</p> <p>学習の内容を最初に伝えておくことは、とても重要です。</p> <p>今、何について勉強しているのか、常に意識してもらいましょう。</p>
<p>税金を通して 学んでほしいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思 い や り ・ 私たちが主人公 	<p>《租税教育の目的》</p> <p>租税教育は、児童生徒に国民として必要な税の仕組みを理解してもらおうと同時に、税を題材として社会を考えることで個人と社会との関係について考察を深め、自由・権利と責任・義務の関係を考え、民主主義の本質についての理解を深めてもらいます。</p> <p>そして、民主的な国家・社会の形成者としての自覚を促し、社会的責任や義務を果たそうとする意識を持ってもらい、社会生活において、多面的に考え、公正に判断する力を育み、国民主権を担う国民として積極的に社会参画する重要性を理解してもらいましょう。</p>
<p>税金はなぜ必要なの？</p> 	<p>《テーマⅠ 税金の意義》</p> <p>無人島に一人で生きるのであれば、税金は必要のないものです。しかし、人は一人では生きられません。社会の中で、みんなと生きていくのであれば「きまり」は必要であり、みんなが幸せになれる社会にしていいため、みんなで支える「仕組み」が必要となります。税金は、その最たるものです。</p>

しかし児童生徒の多くは、税は「自分たちの生活に必要なもの」とは思っていない。

まずはその否定的なイメージを払拭して、税は「自分たちのためにあり、自分たちで支えていくもの」ということを理解してもらいましょう。



《税金の身近な使途》

税金の使い道を、身近なところから知ってもらいましょう。

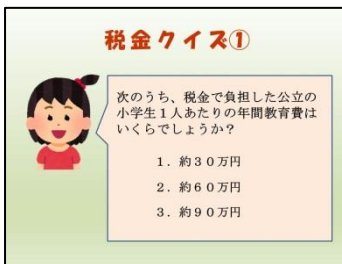
このほか「国際協力」や「防衛」、「科学振興」などにも使われていることに触れることで「これだけではないんだ」と、児童生徒のイメージを膨らませる工夫をしてください。

時間に余裕があれば、「このほかにも、みんなの周りで税金が使われているところは、たくさんあります。思いついた人、手を挙げてみてください」などと、児童生徒に考えさせて挙手を求めるとよいでしょう。



《税の意義》

みんなが「豊かに、健康に、文化的に、安心して」暮らすために使うものであり、自分たちで支えていくものです。



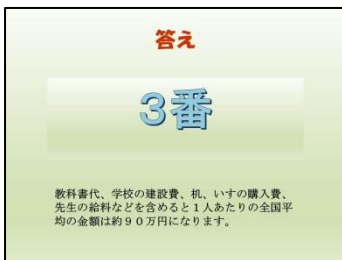
《税金クイズ①》

このあたりになると児童生徒の集中力も途切れてきます。

じゃんけんクイズをして、児童生徒に体を動かしてもらいましょう。

体を動かすことは、集中力を維持しましょう。

※ 小学生用と中学生用で、パワーポイントのクイズの数字が異なりますのでご注意ください。



税金がなかったら！



税金はみんなのために



税金クイズ②



日本の主な税金は、何種類くらいあるでしょう？

1. 約20種類
2. 約50種類
3. 約100種類

答え

2番

約50種類

消費税、固定資産税、自動車税、酒税、たばこ税、法人税、所得税、相続税、贈与税、揮発油税、石油石炭税、航空機燃料税、石油ガス税、とん税、印紙税、自動車重量税、登録免許税、関税、県民税、事業税、不動産取得税、地区税、狩猟税、自動車取得税、地方消費税、ゴルフ場利用税、軽自動車税、鉱産税、都市計画税、水利地益税、共同施設税、宅地開発税、国民健康保険税、入湯税などがあります。

税金の集め方

キーワード
は「公平」

《税金がなかったら！》

断定的な言い方を避け、「かもしれない」と可能性があるという表現にしています。

《テーマⅠ 税金の意義 のまとめ》

税は「自分たちのためにあり、自分たちで支えていくもの」ということを理解してもらえたかを確認してください。

テーマの最後では、必ず理解の確認をしてください。

《テーマⅡ 税金の仕組み》

税を通して社会を考えてもらうことが目的です。

はじめに、なぜ50種類もの税目があるのか、疑問を持ってもらい、その答えは「税金の集め方」を通して学んでもらいます。

「公平」について考えてもらうため、50種類もの税目があるのは、「たくさんの税目を組み合わせることで、立場や意見の違いを調整して、全体として、できるだけ公平な負担を実現させるための仕組み」であることを理解してもらいましょう。

《税金の集め方》

「公平」を理解してもらうため、四つのパターンに分けて説明していきます。

【ポイント】 次のことを児童生徒に体感してもらいましょう。

- ・立場の違いにより「公平の感じ方が異なる」こと
- ・立場の違いから生じた「対立」をどのように「合意」にもっていくのかということ

これらを意識して伝えていくようにしましょう。

公平に集めるって？

どうやったら、公平に集められるかしら？

- ・みんなから同じ金額？
- ・持っている人が全額負担？
- ・みんなから同じ率で？
- ・負担能力に応じて？

どうしたらいいの？



みんなから同じ金額を集める

	持っているお金	集めるお金	残り
Aさん	700	100	600
Bさん	250	100	150
Cさん	50	100	▲50
計	1,000	300	700



《みんなから同じ金額を集める方法》

「公平」を考えるために、まず「平等」を例に挙げています。児童生徒の多くは、平等と公平は同じことだと思っているため、平等と公平の違いに気付いてもらいましょう。

特定の人だけが全額負担する

	持っているお金	集めるお金	残り
Aさん	700	300	400
Bさん	250	0	250
Cさん	50	0	50
計	1,000	300	700



《特定の人だけが負担する方法》

この後に「応益負担」を説明するために挙げています。児童生徒に「Aさんだけが負担するなんて不公平だ」と思わせることもポイントです。また、後の説明で、特定の人だけが負担する税金として「固定資産税」や「自動車税」などがあることを知ってもらいます。

みんなから同じ率で集める

	持っているお金	一律30%	残り
Aさん	700	210	490
Bさん	250	75	175
Cさん	50	15	35
計	1,000	300	700



《みんなから同じ率で集める方法》

この後で「税率」の概念を説明するために挙げています。

負担する能力に応じて集める

	持っているお金	累進税率	残り
Aさん	700	245 (35%)	455
Bさん	250	50 (20%)	200
Cさん	50	5 (10%)	45
計	1,000	300	700



《負担能力に応じて集める方法》

後の解説で「累進課税」の概念を知ってもらうために挙げています。

どれが公平な集め方？

- ・みんなから同じ金額を集める方法
- ・特定の人が全額負担する方法
- ・みんなから同じ率で集める方法
- ・負担する能力に応じて集める方法



《どれが公平な集め方？》

『どれが公平な集め方なのか？』と児童生徒に問いかけてください。ここが租税教育のキモの部分です。

税を題材にして「公平」を考えてもらうことは、租税教育における重要な学習支援の一つです。

- ・公平にはいろいろな考え方があること
- ・平等は必ずしも公平ではないこと
- ・公平は不公平と背中合わせにあること
- ・立場が変われば公平の感じ方も変わる

これらについて、時間をかけてじっくり考えてもらいましょう。

それとともに、AさんとCさんによる「対立」が「合意」になる過程で個人の尊厳と人権を尊重する大切さを感じてもらいましょう。

いろいろ組み合わせたら公平かな？

みんなから同じ金額を集める



特定の人が全額負担

同じ率で集める

負担する能力に応じて集める

いろいろ組み合わせたら公平かな？

みんなから同じ金額を集める



特定の人が全額負担

同じ率で集める

負担する能力に応じて集める

いろいろ組み合わせたら公平かな？

みんなから同じ金額を集める



特定の人が全額負担

同じ率で集める

負担する能力に応じて集める

いろいろ組み合わせたら公平かな？

みんなから同じ金額を集める



特定の人が全額負担

同じ率で集める

負担する能力に応じて集める

《いろいろ組み合わせたら公平かな？》

それぞれのパターンに該当する税目を挙げていきますが、税の種類を覚えてもらうことが目的ではありません。

それぞれの税目の性質を簡単に説明しながら、いろいろな「公平」があることを、理解してもらいましょう。

多くの税目は、それぞれが公平の概念に基づき制定されているものの、単独の1税目だけでは公平な負担は実現できません。

そこで、いろいろ組み合わせることで、立場や意見の違いを調整して、全体として、できるだけ公平な負担を実現させる仕組みとなっている、ということを理解してもらいましょう。

「所得」という言葉は、児童生徒の理解度に応じて「もうけ」や「利益」などの簡単な言葉に置き換えてください

税金の使い方

キーワードは今度も
「公平」

公平に使うって？

どうやったら、公平に使えるのかなあ？

- ・豊かな生活のため？
- ・健康に生きるため？
- ・文化的に暮らせるように？
- ・安心して暮らせるように？



むずかしい！

豊かな町づくり 1

健康で文化的・豊かな生活をおくるために必要なものは何？

いくらかかるかな？	
道路整備	100億円
公園	5億円
公民館	100億円
教育	400億円
消防署	20億円
市民病院	10億円
飛行場	1000億円
警察署	100億円
ダム	▲1000億円

豊かな町づくり 2



豊かな町づくり 3

みんなの将来だから、税金を何に使うのかよく話し合っておくことが大事だよ。決めたことは、みんなにはね返ってくるよ。皆一人一人が主人公だから・・・
答えは・・・

次のキーワードは
「民主主義」

《税金の使い方》

税金の使い方でも「公平」という言葉を使っています。

「公平に使う」という説明については、様々な意見があると思いますが、「公平に集めて、公平に使う」という一連の流れのほうが、児童生徒は理解しやすいと考え使用しています。

「みんなの合意を得られる、みんなが納得する使い方」という意味で、ここでは使っています。

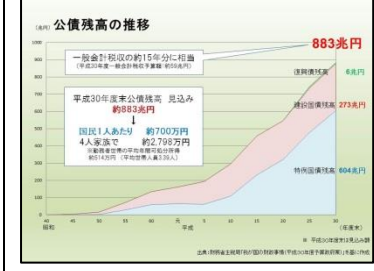
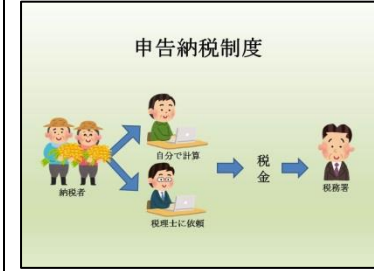
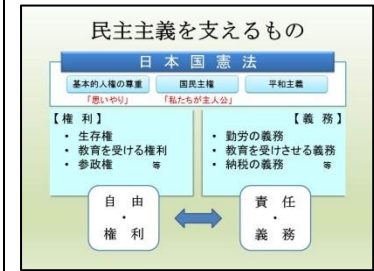
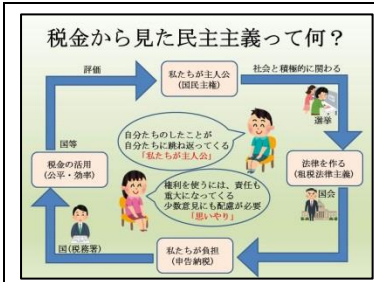
立場や考え方の違いにより、社会では意見の対立が生じます。

限られた財源を有効に使うという命題について、公平に考えたうえで合意に導くことの大切さを感じてもらいましょう。

《税金から見た民主主義》

「税金は法律であり、法律は国会で決まる」ということから、自分たち国民の意志で決めているのだと確認してもらいます。

また「租税法律主義」や「国民主権」を考えてもらい、積極的に社会参画する重要性を理解してもらいましょう。



《納税の義務》

租税教育で、納税の義務をどのように解説するのかは、とても重要なことです。

国民すべてに納税の義務を負わせているのではなく、法律の定めるところにより納税の義務を負うこと、民主主義を保持するため、社会の一員として責任・負担を負うことを説明します。

国民にはたくさんの権利・自由があり、権利・自由を主張するのであれば責任・負担を負わなければなりません。

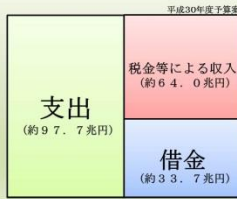
税金は義務だから納めるというだけではなく、自分たちの決めたルールに従って、みんなから集めて、みんなのために使うのが税金なのだを理解してもらいましょう。

自由・権利と責任・義務の関係を、広い視野から正しく認識してもらえるような講義を実践してください。

《テーマⅢ 財政の現状と課題》

財政赤字・少子化等、現在の日本が抱える課題に触れながら、民主主義・国民主権の見地から租税立法のあり方や税金の使途等について関心を抱き、公正な判断力を備えた国民として成長できるよう、児童生徒が自ら考えるきっかけを作ることを目的とします。

日本の財政



少子高齢化

高齢者と働き手の比率



今後の課題

解決方法は

1. 増税して収入を増やす
2. 支出を減らす
3.

- ・思いやり
- ・私たちが主人公

宿題

期限：大人になるまで

※ 少子高齢化のスライドは中学生用パワーポイントのみです。

《今後の課題》

将来予想される財政の課題に触れるとともに、財政赤字を解消するためにはどうしたらよいかを考えてもらいましょう。

安易に増税や歳出削減をするのではなく、慎重に考えることが大事であると伝えましょう。

また、景気の良し悪しも財政に影響をあたえることを理解してもらいましょう。

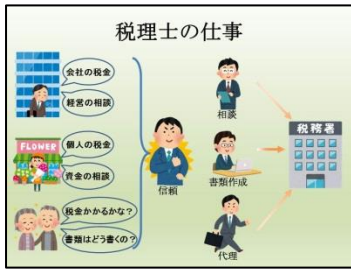
《宿題》

社会を支える一員であることを自覚してもらい、様々な問題に関心を持ち、自身のこととして考えるきっかけを作ってください。

税に対する知識を深めてもらうと同時に、税を題材にして社会を考えてもらうことにより

- ・公平について考え
- ・民主主義の理解を深め
- ・積極的に社会参画する自覚を芽生えさせる

このような租税教育を実践してください。



《税理士の仕事》

税理士の仕事の説明は、最初の自己紹介時にする場合も多いと思いますが、申告納税制度の説明後の方が理解しやすいことや、時間の関係で省略しやすいことを考慮し、最後に持ってきています。最初に説明する場合は、入れ替えて使用してください。

講師の皆様へ

税理士が行う租税教育は、単に「税金を納めましょう」という納税教育をするためではなく、「税」を通して社会を考え、民主主義全般に関する理解を深め、租税の意義・役割・課税の公平・租税法律主義・民主主義における納税の意義などを理解してもらい、租税に興味・関心を抱いてもらうために行います。

申告納税制度の理念のもと租税について深く考え理解する力を育み、租税教育を通じて、国民一人一人が社会のことを考え、租税立法のあり方や税金の使途等について公正な判断力を備えた国民に成長してもらうことを目的としていることを忘れないでください。